



よこはましりつとよおかしやうがっこう
横浜市立豊岡小学校

れいわ ねん がつ にち
令和6年6月28日

学校だより

7月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/toyooka/>

TEL:045-581-3248

がっこうきやういくもくひやう まな あ たか あ
学校教育目標：【学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子】

体験すること～非認知能力の育成を目指して～

こう ちやう やなぎさわ たかとし
校長 柳澤 尚利

「非認知能力」という言葉があります。「非認知能力」とは、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力のこと全般をいいます。文部科学省は、主に3つの観点「①自分の目標を目指して粘り強く取り組む ②そのためにやり方を調整し、工夫する ③友達と同じ目標に向けて協力し合う」でまとめています。

いずれにしても、他者との関係の構築など、日常生活や社会活動において、さらには、これからの予測困難な時代に生きていく上においても、重視される能力として注目されています。では、どうやってこの能力を育てていけばよいのでしょうか。

文部科学省が、令和5年3月の「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」において、小学校高学年の時期における各種の体験活動の経験は、その後の非認知能力等に関してよい影響を及ぼす可能性があるとしています。具体的には、小学校6年生時点で「自然体験」「文化的体験」「社会体験」を経験することは、20歳までの時点における「自尊心」「精神的回復力」「がまん強さ」「精神的健康」のいずれに関しても、プラスの効果が見られるという結果を示しました。

本校では、5月に6年生の日光、6月に5年生の三浦、4年生の上郷で1泊2日の体験学習を行いました。日光の文化的な建造物の見学といった「文化的活動」、自然豊かな地でのハイキング、海での活動等の「自然体験」をしました。さらには、友達との泊を伴う協働生活をする中で、様々な人にお世話になったり、マナーを守ったりする「社会体験」で、たくさんの子どもたちの姿や振り返りから、様々な非認知能力が高まっていると感じています。

2、3年生もたくさんの地域の方にご協力をいただいている豊岡の町での活動、1年生の他学年と交流のたてわり活動が、6月までに行われています。豊岡小学校では、1年間、全学年を通じて意図的・計画的に「人・自然・文化」等の体験活動の充実を図ったカリキュラムで、「非認知能力」の育成を目指しています。

7月になり、長い夏休みも近づいてきました。様々な地域行事が豊岡の町にあります。また、普段できないことにも挑戦していくと思います。たくさんの体験活動から、一回りも二回りも成長していく子どもたちに期待しています。

引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご協力を、よろしくお願い申し上げます。